

令和7年度第1回大府市環境審議会 議事録

日時：令和7年7月14日（月）

午前10時から

会場：大府市役所 201 会議室

＜委員出席者＞12名（敬称略）

千頭聡（日本福祉大学国際学部特任教授）、西村和子（大府市教育委員会教育委員）、村瀬由理（大東小学校再任用・教諭）、澤田和孝（愛知県知多県民事務所環境保全課長）、永井一美（区長会会長）、倉元須麻子（地域婦人団体連絡協議会会長）、稲葉きみ子（あいち知多農業協同組合）、間瀬計行（大府商工会議所事務局長）、坂野好子（バンノ自動車商会代表）、近藤隆幸（株式会社豊田自動織機安全・総務部環境室室長）、相木徹（オオブユニティ株式会社代表取締役）、長嶋典子（環境美化推進員）

1. 開会

- ・会長より挨拶
- ・新任委員より挨拶

2. 議題

（1）令和6年度一般廃棄物処理実績について【資料1】

【事務局】資料に基づいて説明

【委員】家庭系の資源回収とは具体的にどんなか。

【事務局】公共資源ステーションでの回収、地域での資源ステーションでの回収したものが主な内訳である。

【委員】資源回収量は前年度よりも増えたということか。

【事務局】スーパーマーケットや民間事業者の資源回収量も昨年度より包含しているため、回収量が増加している。

【委員】「1 ごみ処理-（1）排出量」について、資源回収量は合計にまとめない方がよいのではないか。

【事務局】とりまとめ方法を検討する。

【委員】項目により目標値以上、以下を目指すものがあるので、見せ方を工夫した方がよい。

【副会長】腐食した電池や古い充電電池をどのように処分すればよいか。

【事務局】腐食した電池も公共施設の乾電池回収ボックスで回収している。充電電池は環境課窓口で受け取っている。

【副会長】周知はどのようにしているか。

【事務局】広報、ウェブサイトで周知をしている。

【委員】「2 生活排水処理」について、浄化槽汚泥の量が増えているのはなぜか。

【事務局】下水道区域外で宅地開発が進み、浄化槽の設置が増えたためと考えている。

【委員】浄化槽法改正の関係で、法定検査と保守点検、清掃の一括契約をする方が増え、適切に清掃が実施されるようになったことも関係しているのではないか。

(2) 環境マネジメントシステムに関する取組について【資料2】

【事務局】資料に基づいて説明

【委員】近年電化の動きが進んでいるが、電源が火力発電であれば本質的な解決にならないのではないか。その点について長期的な考えはあるか。

【事務局】まずは省エネ設備の導入等、既存設備の省エネ化を行い、次に太陽光パネル等の再エネ導入に取り組み、最終的には再エネ由来の電力調達といった段階的な取り組みを考えている。

【委員】再生可能エネルギーについて、利用されていない屋根や屋上の活用を推進することは重要だと考えるが、むやみに森林伐採をして太陽光パネルが敷設されるのは違和感がある。既存の施設等を活用してエネルギーを作る取組を推進してほしい。

【事務局】令和3年度に太陽光発電設備に関する条例を施行し、自然や地域との調和を目的に運用している。

【委員】自治区への加入率が減少傾向にあり、自治区未加入エリアのごみ問題にどう対応するかが課題になっている。

【事務局】環境分野の取組としては、ごみステーションの運営を通して地域のつながりができることを期待している。今後、さらに地域でのつながり構築のために対応を検討する必要があると考えている。

【委員】地域のイベントに協力している市民の割合が低いことが気になる。ただ、実感としては地域イベントへの関心は高まっている印象を受けている。また、クリーン・アップ・ザ・ワールドでは目標値を既に上回っているが、今後目標値を見直す予定や推進の方向性、考え方をお聞きたい。

【事務局】計画策定段階では、令和2年度の現状値を踏まえた目標設定を行ったが、その後、感染症防止の観点から小規模で開催する団体が増え、想定よりも早く目標達成に至った。目標値の見直しも含めて、今後もさらに活動を活性化できるよう推進していく。

【委員】地域内での関係が希薄になり、ごみ問題等の対応に苦慮している。現状の地域課題を踏まえて対策を検討しないと問題が解決しないと思う。

【事務局】ごみの戸別回収について市民に要望いただくことも多いが、現段階ではごみステーション通じた地域とのつながりを継続して推進していきたいと考えている。本日いただいたご意見については、今後も調査研究していきたい。

【会長】10 ページ目の「イベントに協力している市民の割合」の項目は、イベントの回数と連動する項目である。次回指標作成時には各目標設定が適切か検討いただきたい。

【委員】10 ページ目の表について各値の関係性が分かりにくい。重点的に取り組むべきことがわかりやすくなるようまとめ方を工夫してはどうか。

【会長】増加を目指す目標と減少を目指す目標についてもわかりやすく記載してほしい。

【委員】窓に張るタイプの太陽光発電設備や、紙資源を回収する際の袋も紙袋とすることでCO2 排出量の削減を行った事例があると聞いた。今後検討してはどうか。高齢の自治区加入者が、当番ができないので脱退したいという話を聞いたことがある。そのような方も自治区加入ができる制度があるとよいと思う。

【委員】現にそのように運用されている組もあると聞いたことがある。

【委員】地域で話し合い、解決できたらよいと思う。

【委員】夜間の犬の鳴き声について、飼い主への指導をお願いしたい。

【事務局】犬の鳴き声については愛知県動物愛護センターと連携して飼い主への指導を行っている。太陽光発電設備については引き続き情報収集をしていく。

(3) 第7次大府市庁内等環境保全率先行動計画「エコプランおおぶ」の策定について

【資料3】

【事務局】資料に基づいて説明

【副会長】民間の介護施設等に市の取組方針を説明する場はあるか。

【事務局】現状では行っていない。現在は市の温室効果ガス排出量の約7割を占める産業部門、特に製造業に向けたアプローチをしているが、将来的に他業種へのアプローチも重要になると考えている。

【会長】設計・施工会社へのアプローチも重要ではないか。

【事務局】今後、商工会議所と連携して関係する事業者への啓発を行いたい。

【委員】今年度、製造業の事業所向け補助金制度を市で実施しているが、要件の「省エネ診断受診」で国が実施している枠が埋まってしまい、省エネ診断受診ができない事業者もいる。そのような事業者へのフォローをお願いしたい。

【会長】ポンプ場は全体でどの程度のエネルギー使用量を占めているのか。

【事務局】2割程度である。

【委員】本計画はいつから運用を開始するか。

【事務局】来年度から運用予定である。

【委員】ZEBの建築について、公共建築物の所管課との調整はしているか。

【事務局】施設所管課や企画部門との調整の中で、ZEB化の推進や働きかけを行っている。

【委員】専門的な用語が多いため、手引きの最後に用語集を追加してはどうか。

（４）美しいまちづくり表彰について【資料４】

【事務局】資料に基づいて説明

【会長】表彰内容について承認でよろしいか

【委員】異議なし

3. その他

（１）ゼロカーボンシティ推進条例（仮）の制定について【資料５】

【事務局】資料に基づいて説明

【会長】同主旨の条例を制定している県内自治体はあるか。

【事務局】県内では初である。

【委員】2ページ目「公共交通機関の利用等」について、自転車も追加すべきではないか。大府市は道路が狭く、自転車が安全に通行できないのが課題だと考えている。自転車の推進と併せて、道路の整備も進めてほしい。

【事務局】検討する。

【委員】自転車の利用を推進するため、乗り方のマナー啓発も必要である。

【会長】2ページ目「事業者の役割」で、他者の温室効果ガス削減に関する記載は、大企業がサプライヤー企業等を支援することを想定するという意味か。

【事務局】その通りである。

【会長】2ページ目「広域連携等の推進」について、大府市が周辺自治体と連携していることは先進的でよい取組であるため、ぜひ進めていただきたい。

【会長】施行予定はいつか。

【事務局】早ければ来年度施行予定である。

【委員】条例の制定を機に、大府市独自の中小企業向け補助金制度等を作っていただきたい。

【事務局】最適な支援を調査研究する。